

子供達の修学旅行

子供達小学校の修学旅行には、親バカながら二人共付いて行った。

昭和四十一年五月、洋一達の（動く教室）修学旅行だ。朝五時三十分陸前原ノ町駅集合、仙台駅で乗換え郡山駅でバスに分乗し目的地に向かう。

私は自家用車（ダットサンピックアップ）で、出発起点から、こっそり後をつけ、二日間を追いかけることにした。

郡山駅に一足先に着き、生徒たちの乗ったバスの後を追いかける。猪苗代湖、五色沼、檜原湖、を見物、昼食後、野口記念館に向い見学。その後鶴ヶ城で散策し五時頃、芦の牧温泉到着、一日目の日程が終わる。私はずっと写真を撮り続け、別の旅館に予約無しで泊った。

八時に芦の牧温泉出発、飯盛山、白虎隊の墓、自刃場所、記念館の見学、猪苗代湖畔で休憩、スカイラインを通り浄土平で昼食、見物後、福島駅に向い三時頃到着、乗車、仙石線陸前原ノ町駅には五時頃全員無事で会津の旅は終わり到着した。私はスカイラインの出口で別れ、一足先に原ノ町駅に着き、子供達の無事を確認後自宅に帰った。



同行した目的は写真を多く撮り、子供達が大きくなった時、幼き時代の思い出にと、考えたからである。その時撮った写真が多く残っている。

しかし洋一の時は最初はコッソリ付いて行つたつもりだったが、先生や生徒に知れてしまった。

それから二年後、昭和四十三年五月二十一日、二十二日の二郎の時は担任の先生から、「バスで移動中、不調を訴えた生徒が出たら、乗せて下さい」と話され、公になってしまった。事実途中女生徒一人気分悪くなり、約一時間位だったが、その子の友達と二人乗せ、団体バスの最後尾について走った。

前年、スカイラインバンに、買い換えたばかりの新車だから、快適だった。一昨年の洋一の時と同じコースである。生徒の中に分け入り、撮りまくった、男の子、女の子、二郎、私の写真も有る。

スカイラインでスカイラインを走り、浄土平で休憩、吾妻小富士に登り、持っていたアマチュア無線トランシーバーで、仙台で留守をしている妻J A 7 L V O とコンタクトが取れた。有料道路スカイラインを出ると間もなく福島市内で、生徒達は福島駅から、汽車に乗り帰路に付く。私は途中で別れ、一足先に我が家に帰った。

生徒一人一人に（会津への旅）の小冊子が渡されている。その表紙を写真帳に貼り、思い出帳を作った。

二郎の修学旅行の時、私は四十三才だった。

1

地図を広げて夢見た町を

二度と返らぬ思い出のせて

ぼくのカメラで写した君を

クラス友たち肩寄せ合えば

思い出すだろ いつまでも

ベルが鳴る鳴るプラットホーム

ラララ汽車は行く 汽車は行く

ラララ汽車は行く 汽車は行く

はるはると はるはると

ひとすじに ひとすじに

若いばかりの修学旅行

若いばかりの修学旅行

会津の旅より

平成十四年六月三十日